教団新報

定 価 1部140円（本体133円〒共200円）
予約購読料 1年分 〒共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし

「教団総会議員を選出しない」との動議を挙手多数で可決

2012年度 ③

教区総会報告

重要諸課題に、教区間で温度差

沖縄 東北 関東 西東京 東中国 東京

伝道所信徒議員資格を巡り議論沸騰

沖縄教区 第69回沖縄教区総会は、5月27日から2日間、沖縄キリスト教センターで開催され、開会時、正議員44人中38人が出席した。

沖縄教区は、03年以来、連続10年、教団問安使を拒否したが、沖縄訪問中の石橋秀雄教団総会議長は、昨年に引き続き、総会を傍聴した。

午後4時30分からの開会礼拝終了後、組織会に入る直前、「昨年の教区総会で可決した教区規則改正にのっとり、何故、伝道所信徒議員が正議員として招集されなかったか」の質問から長い論議が始まった。

竹花和成議長は、「本年1月、信仰職制委員会から規則変更不承認との通知、2月、総会議長名で『常議員会で否決されたので不承認』との通知を受け取った。合同の経緯に伺ら反省、配慮しないやり方には、教団にますます距離を置き続けざるを得ない」との議長総括報告を読み上げ、「三役は、今総会までの任期なので、新三役の下で検討して貰うこととし、やむなく従前通り准議員で招集した」と了解を求めた。

小倉隆一副議長は、「教区規則61条には『規則の変更は、教団議長の承認を受けた公告』の文言があり、これを改正しないと、正議員には出来ない。2月の通知から余りにも時間がなかった」と補足したが、議場は納得せず議論が続いた。

「教区規則の故というなら、常置委は何故、教区規則改正議案を上程しなかったか」「教団が承認する訳はないことは昨年の時点で分かっていた。この議事の進め方は、昨年の教区総会の意志に反している」

「合同で沖縄教区は、3つの1種教会、2つの2種教会が格下げとなった。この経緯から、教規第61条に『沖縄教区の場合は、教区規則の定めるところによって変更できる』と但し書きがある。教団がこの点を知った上で協議したのか。教団に対し物言いをすべき」との批判が続いた。

これに対し、竹花議長は、「対話をしたいというなら、教団はあんなに簡単に決定を出すべきでなかった。この総会が無効になってもいいと思っている」と答えたが、同時にまた、「昨年の総会決議は生きている。前へ進めるために、議長責任で総会を開会させて欲しい」と再三訴えたが、途中での来賓挨拶、夕食休憩後の逝去者追悼礼拝後も議論が続いた。

元議長が「珍しく本音で話し合う総会となった」と発言したように、「格差を言うなら、何故伝道所に止まり続けて来たのか」「教団が教区を置いている。嫌なら教団から出るしかない。それでいいのか」「こういう議論を繰り返しているから、沖縄から去って行った人も多い」など、議論は多岐にわたった。

議論開始から5時間近く経過し、竹花議長が、「教団の問題は、沖縄に凝縮して来た。議長総括で書いたように、『教団に属していることが本当に相応しいかを吟味せずには置かない節目に来ている』と思うが、話し合いを今後も続けることを確認して総会を開きたい」と述べたことを拍手多数で受け入れて点呼が始まり、午後10時、竹花議長は開会を宣言した。

議長選挙では、投票総数36中、22票を獲得して竹花和成議員（首里）、副議長選挙では同じ22票で小倉隆一議員（平真）が再選され、書記には望月智議員（志真志伝道所）が選任された。

教団総会議員選挙議案は上程されたが、「距離を置き続ける必要があるので選出しない」との動議が成立・可決され、沖縄教区は第34回総会以来5回連続で、教団総会議員を選出しなかった。

「沖縄キリスト教センター法人化特設委員会設置」議案が可決され、教区立法人への作業が進められることとなった。

「原発の即時停止、廃止。再稼働は一切行わない。自然エネルギーへの速やかな転換」を盛り込んだ「脱原発を求める声明」を語句修正を常置委付託として可決。「研修センターなぎじん資金」取り崩し議案などを可決した。

常置委員選挙結果

【教職】金井創（佐敷）、宇佐見節子（石川）

【信徒】高里鈴代（西原）、外間永二（教区宣教方針改定委員長）、仲座宗信（那覇中央）、大森節子（教区婦人会連合）

（永井清陽報）

新庄三教会、山形南北地区合同

東北教区 第67回東北教区総会が5月29日～30日、仙台青葉荘教会と東北教区センター「エマオ」を会場に、開会時正議員153名中130名の出席を得て開催された。

最も関心を集めた議案は「新庄教会と新庄本町教会と新庄新生教会合同に関する件」と「東北教区山形南地区・山形北地区合同に伴う教区規則第45条①改定に関する件」。審議は、一日目、開会礼拝と准允式執行の後、「第38回教団総会議員選挙に関する件」の予備投票の直後に、法定議案より先に行われた。

多勢員議員（新庄教会主任）より経過説明がなされた後、「三教会が合同したが、名称はどのように決めたのか」「会堂の使い方など今後の展望は」など幾つかの質問が出された。多勢議員は、「名称は最後まで審議した。計50回の合同委員会はその結果である」「礼拝は旧新庄教会で、祈祷会は旧新庄新生教会で行っている」と答えた。最後に高橋和人教区議長は「この三教会の合同は、東北教区『宣教共働研究所』の提案で始まった。三つの布で織物を織るかのように協議を積み重ねた結果による、教会間の共働による合同である」と答弁を締めくくり、採決に入った。122名中120名の賛成で可決され、新しい「新庄教会」が誕生した。

この議案に続いて、山形南地区と北地区合同の議案が審議された。教区規則変更議案であるので3分の2以上賛成が必要であることが確認された後採決に入り、122名満場一致で可決された。

続いて「2011年度教務教勢・諸報告に関する件」が審議された。常置委員会報告で「教会支援資金（案）・「伝道支援資金」（案）が継続審議になった理由について質問が出された。小西望副議長が答弁に立ち、「教団は教会再建については国内募金で対応を考えているが、各教会の必要額の2分の1が支援金で残りは貸し付けとなる見通しである。この貸し付けについては教区も責任を負うことになる。どういう仕方で今後支援したらよいのか慎重に検討した結果継続となった。また、人道支援金が教団より多額に支出されているのは、海外募金からで、教会復興金とは原資が異なると判断している」と述べた。

午後7時からは、場所を「エマオ」に移して「震災に関する協議会」を4名の教師による発題を受けて行われた。最後に東北ヘルプ（仙台キリスト教連合会）からも震災に関する取り組みが報告され、参加者はみな熱心に聞き入っていた。

2日目には、岡本知之教団副議長を迎えての問安使挨拶と、これを巡る質疑応答が行われた。震災関係、特に原発に関しては、質問に応えて、教団の対応、今後の姿勢について、議長報告や11号室ニュースにも盛られていない詳細な経緯説明がなされた。沖縄教区との対話について、もっと詳細な報告が欲しかったという要望が述べられた。

また、「共に生かされる教会」を主題とする、「2012～2021年度東北教区長期宣教方針に関する件」が上程され、今後10年の教区宣教のビジョンが極めて具体的かつ詳細に示された。

常置委員会提案により、事柄に具体的に取り組んだ「セクシュアル・ハラスメント・ガイドライン」及び「セクシュアル・ハラスメント相談窓口設置」が示され、可決された。

同じく常置委員会提案により、「再び、あらゆる差別の撤廃を！東北教区における同性愛者差別事件に関する見解と今後の取り組みに関して」声明が出された。

その他、建議では、「東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、第67回日本基督教団東北教区総会はすべての原発を廃炉とすることを求める」という声明を出すことが決議された。

教団総会議員選挙結果

【教職】高橋和人（仙台東六番丁）、小西望（仙台北）、石井佑二（山形本町）、保科隆（仙台東一番丁）、高橋真人（会津坂下）、上野和明（仙台愛泉）、片岡謁也（若松栄町）、原裕（天童）、清野久貴（泉高森）

【信徒】遠藤道雄（福島伊達）、工藤正剛（仙台愛泉）、高橋嘉男（名取）、齋藤久夫（仙台広瀬河畔）、佐藤京子（仙台北）、小林義春（石巻山城町）、石原裕子（常磐）、大塚好子（山都）、高橋芳人（仙台東一番丁）

（新報編集部報）

原発問題で熱弁を振るう岡本問安使

常陸大宮伝道所開設承認

関東教区

第62回関東教区総会は5月29～30日、大宮ソニックシティ・小ホールを会場に、開会時正議員268名中202名の出席で開催された。総会礼拝の中で4名の准允式が執行された。

また、『日本基督教団常陸大宮伝道所』開設に関する件」が承認され、伝道所開設の喜びを分かち合うひとときとなった。

その後、教団問安使・石橋秀雄教団議長による挨拶を受け、質疑応答は主に「東日本大震災救援募金関連」、「NCC関連」、「戒規関連」の3点についてなされた。

石橋教団議長は「震災救援募金会計支出は会計監査をもって詳細の報告をする」、「NCCは新議長により『伝道に熱くなる』NCCを目指している」、「戒規は教団の訓練規定、北村氏は未受洗者陪餐をやめて帰って来てほしい」と述べた。

「議長報告」で、秋山徹教区議長は「教団募金に集中して協力する体制をとっているが、そのために、教区としてもこれを推進してゆく方策を今総会で提案する」と述べ、東日本大震災被災支援における教区としての取り組みを重要な課題とすることを示した。

また「『東日本大震災支援』に関して」の協議会を開催。教区内にある被災諸教会・伝道所及び附属幼稚園・保育園を含むキリスト教施設の現状と課題、アジア学院における放射能汚染に対する取り組みについて等報告され、教区内における被災支援の共有理解を深めた。

各議案は協議を深めるため4つの分科会に回付され、その報告を受けて審議された。「教会互助規則変更に関する件」、「『ナルドの壺献金』推進の件」、「『会堂・牧師館建築緊急貸出基金』献金推進の件」、「『韓国基督教長老会京幾中部老会よりの交流訪問募金』に関する件」、「『2012年度教団部落解放センター活動献金』推進の件」等可決された。

議案第14号「『東日本大震災被災支援』に関する件」は「『被災教会支援金配分要綱』で定められた『支援希望額50%を一応の目途とする』から100%支援の実現を目指して教団と連携して教区全体で支援に取り組む」との提案がなされた。「支援の線引きはしない」、「教区内の被災支援に力を入れたい」、「耐震対策の準備として教会建物の図面を用意すること」等の意見が出され、また石橋教団議長が「被災教区の支援計画を教団は受け止めて支援してゆく」と述べ、採決の結果可決された。

最後に上程された議案第21号「『原子力発電からの脱却を求める関東教区声明』に関する件」は「電力（関連企業）で働いている人たちのことを配慮してほしい」等議論され、常置委員会付託となった。

逝去者追悼礼拝は、平山正道牧師（四條町）司式により執り行われ、一年間に逝去された教職、信徒が祈りに覚えられた。

教団総会議員選挙結果

【教職】秋山徹（上尾合同）、熊江秀一（新津）、疋田國磨呂（大宮）、小池正造（東新潟）、村田元（原市）、栗原清（武蔵豊岡）、石橋秀雄（越谷）、平山正道（四條町）、田中かおる（安行）、三浦修（埼玉和光）、島田進（日立）、飯塚拓也（竜ヶ崎）、東野尚志（聖学院）、新井純（十日町）

【信徒】内田聖子（長岡）、滝川英子（七里）、川田光江（越谷）、國吉常喜與（宇都宮上町）、佐久間文雄（志木）、菊地愛（東中通）、小西文江（新潟）、半田孝一（原市）、和田献一（氏家）、三井田忠昭（岩槻）、吉田武人（鴻巣）、内山一（鹿島）、富永研司（日立）、羽倉信彦（上尾合同）

（松本のぞみ報）

秋山議長による受允者紹介

立川開拓伝道推進決議

西東京教区

西東京教区第26回定期総会は、5月27～28日、阿佐ヶ谷教会を会場に開催された。開会時出席正議員は209名中126名。組織会の後、准允に関する件を承認した。

開会礼拝では岩田昌路牧師（狛江教会）が「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。」と題して説教、続いて大村栄議長司式により准允式が執行された。また今総会の開会礼拝においては、教区設立以来初めてとなる聖餐式が執り行われ、記念すべきときとなった。

第1日目その後の議事では、諸報告および決算について取り扱われた。議事と並行して、常置委員選挙（半数改選）ならびに教団総会議員選挙が行われた。選挙方法に関して、常置委員会提案の全数連記に対し、常置委員選挙では予備選の実施、教団総会議員選挙については少数連記と立候補による所信表明を実施との提案が議場からなされた。提案理由での「顔が見えない」との意見に対し、「聖餐式が実現したことこそ、顔の見える教区形成がなされている事実」と原案支持の意見も述べられ、採決の結果、いずれも原案通りの方法で選挙が行われた。

教区総会初めての聖餐式

第2日目は追悼式、次いで新任および新着任教師紹介がなされた。その後、内藤留幸教団総幹事により教団問安使挨拶がなされた。北村慈郎氏による教団提訴の裁判について、NCCと教団の関係について、財政・組織のスリム化について等、質疑応答がなされた。引き続き、在日大韓基督教会関東地方会代表、教団出版局・年金局、東北教区被災者支援センターから挨拶を受けた。

議事においては「2012年度宣教活動計画」に関する件」「教区歳入歳出予算承認の件」「立川開拓伝道を推進する件」が審議された。西東京教区は「教会を生み出す」との教区設立趣旨の具現化として、立川駅周辺での開拓伝道を推進してきた。そして「2012年度中には、教区が主体となる伝道所を開設することが望ましい」との常置委員会判断により、上記議案が提出された。これを受けて、立川開拓伝道費用が今年度より一般会計からの支出となることを盛り込んだ予算案が提案された。

活発な意見表明、質疑応答がなされたが、いずれも基本的に賛成の立場から、内容の確認ひいては教会を生み出すことへの教区全体の覚悟を問うものであった。採決では圧倒的な賛成多数により可決・承認された。

1伝道所の廃止が提案され、伝道の志を教区活動において覚えていくことを確認して承認した。

議事の各所で東日本大震災について覚えられ、西東京教区によるボランティア派遣は今後も継続することが確認された。また会場脇ではパネル展示やチャリティー販売もなされた。

常置委員選挙結果（半数改選）

【教職】吉岡光人（吉祥寺）、願念望（国分寺）、石田真一郎（東久留米）

【信徒】宮下重康（玉川）、中嶌暁彦（八王子）、井田昌之（狛江）

教団総会議員選挙結果

【教職】真壁巌（相愛）、吉岡光人（吉祥寺）、願念望（国分寺）、七條真明（高井戸）、千原創（境南）、大村栄（阿佐ヶ谷）、石田真一郎（東久留米）、山畑謙（小金井緑町）、岩田昌路（狛江）、岩本聖史（白鷺）、長谷川洋介（石岡記念）、芳賀力（東京神学大学）

【信徒】川原正言（南三鷹）、折原威男（阿佐ヶ谷）、高橋豊（白鷺）、小中乃芙子（永福町）、高津博（大宮前）、中嶌暁彦（八王子）、鐘ヶ江有道（中野）、村山めぐみ（阿佐ヶ谷）、平田節也（小金井緑町）、島田弘道（石岡記念）、島林樹（吉祥寺）、淵本康方（日野台）

（松本周報）

信徒伝道者による聖礼典執行で前議長引責辞任

東中国教区

第61回東中国教区総会が、5月28～29日、米子教会を会場に、開会時正議員95名中71名の出席を得て開催された。

先ず、宇野稔前総会議長の任期途中による辞任と、後任選挙について記さなければならない。辞任に至る経緯は、常置委員会報告に詳細に記された。

約めて言えば、他教団で教師として働いていた人物が、身分上は信徒伝道者として迎えられたが、実質牧師としての働きを担っており、この人物は任務全うのために必要と考え、聖礼典を執行した。教区はこれを諌め、執行を中止するように勧告したことで、事は収拾したと判断したが、執行は続き、6名に洗礼を授けていた事実が、後に判明した。宇野前議長は、当該教会の代務者だったこともあり、責任を取り辞任した。

この経緯説明と事実関係の把握を巡り、長い質疑となった。宇野前議長が、この事実を承知し容認していたのではないかという疑義が述べられたのに対する答弁が、一教師としては理解するが、議長としては容認していないという、難解なものだったこともあり、大きな議論になった。

また、この受洗が有効か否かという指摘もあり、この人物は辞任し教会を去ったものの問題を残した。

これを受けた議長選挙では、予備投票の後の本投票、再投票でも過半数に至らず、決選投票となる大接戦の末、現職の服部修副議長を退けて、小松茂夫常置委員が当選した。

同じく常置委員会報告には「中期宣教計画立案のためのプロジェクトチーム」の報告が盛られた。教区機構改革と教区財政構造の転換、礼拝サポートのしくみ、教職のエンパワーメント等7項目が上げられ、議場でも盛んに議論された。

特に、過疎化が進む地域にある教会への対応について、限界（集落・教会）から、崩壊（集落・教会）へと進む危機的状況下、何ができるのか何をなすべきか、兼牧・代務、謝儀互助等を巡り、いろいろと意見が述べられ、窮状が訴えられた。現状保全のための対応に終始しない抜本的な案が求められる一方、「信仰にマネジメントは必要ない、先ず神の国と神の義を」という声も上がった。

過疎化の下で、いかに宣教の働きを維持し、一個一個の教会と、そこでしか出来ない信徒の信仰生活を守るかという課題は、この総会の多くの議案審議に重なる総会全体の主題のようであった。

「負担金算出賦課に関する件」では、新しい算出方法が採られたことについて、担当者の狙いとは逆で却って分かり難いという意見が多数述べられた。特に、負担金が大きく増加する教会の立場から異論があり、また移行処置の分かり難さが指摘された。結果は、今年度はこの案に基づいて、算出賦課するが、常置委員会において、再度内容を検討することとなった。

諸議案を通じ、この時代に、都会ではない地域で伝道し、教会を形成する困難さが伝わってきた。その中で、一人ひとりの氏名が朗読されるなど、逝去者記念礼拝が大切に守られ、「顔の見える教区」を標榜する教区の姿勢を窺うことが出来た。

教団総会議員選挙結果

【教職】指方信平（旭東）、小松茂夫（鴨方）、宮﨑達雄（倉敷）、奥田望（上井）、服部修（蕃山町）、嵐護（琴浦）

【信徒】太田直宏（岡山）、國岡啓二（用瀬）、松田章義（鳥取）、丸山玲子（倉敷）、難波幸矢（光明園家族）、河田直子（蕃山町）

（新報編集部報）

東中国教区三役

選挙方法を巡り議論

東京教区 第71回東京教区総会は5月29日と30日、東京山手教会において、正議員505名中、開会時310名が出席して開催された。

選挙方法の改正を求める議員提案が2件出され、活発な議論が交わされた。

教区常置委員選挙一部改正については、現行の1人5票の完全連記制から、1人3票の制限連記制に改める提案で、347名中賛成110名で否決された。反対意見として、制限連記は党派制で考えることになる、各教会総会では全数の選挙が行われている、全数を選ぶ権利がある、などがあった。

教区選出教団総会議員選挙の一部改正については、第1選挙で定数のうち30名を各支区（同数）で選出された候補者から総会議員を選び、第2選挙で東京教区総会議員全員から残数を選出する提案で、330名中賛成83名で否決された。反対意見として、支区連合が教区ではない、などがあった。

「第71回東京教区総会議事録を総会終了後6ヶ月を目途に公表する」という議案第12号については、書記から実際の議事録作成の過程が丁寧に説明され、現行のスケジュールがやむを得ないものであることが確認された。少しでも早めに公表できるよう努力する方向で受け止める、ということで、議案そのものは否決された。

議案第13号「教区『伝道協議会』設置に関する件」の提案理由として、年2、3回開催される教区伝道部委員会だけでは、各支区の伝道部の働きや伝道に関連する事項についての情報交換が不十分であることが挙げられた。そこから、協議会について、各支区の伝道委員を中心に教区婦人部や信徒会関係者などを加えて構成すること、協議会ごとに主題を設定して各支区から発題者を立てること、さらに予算の組み方に至るまで詳細な提案がなされた。この提案に対して、伝道姿勢の確立と伝道方針は常置委員会に一任してほしい、そういう体制を作ることが目的である、信仰告白の一致に基づく伝道が求められる、などの意見が寄せられ、常置委員会付託にするとの修正案が、可決された。

選挙結果をプロジェクターで報告

常置委員選挙結果（半数改選）

【教職】長山信夫（銀座）、菅原力（弓町本郷）、岸憲秀（千葉本町）、渡邊義彦（柿ノ木坂）、松井睦（聖徒）

【信徒】朝岡瑞子（船橋）、岡田義信（田園調布）、持田二郎（池袋西）、永井清陽（経堂北）、澤田竹二郎（白金）

教団総会議員選挙結果

【教職】長山信夫（銀座）、張田眞（鳥居坂）、木下宣世（西千葉）、菅原力（弓町本郷）、中村公一（代々木中部）、岸俊彦（経堂北）、渡邊義彦（柿ノ木坂）、長崎哲夫（東京山手）、倉橋康夫（富士見町）、岸憲秀（千葉本町）、松下恭規（芝）、小橋孝一（新島）、阿部祐治（自由が丘）、松井睦（聖徒）、今泉幹夫（小金）、山本信義（牛込払方町）、国府田祐人（荒川）、竹井真人（波浮）、清弘剛生（頌栄）、及川信（中渋谷）、長津栄（高輪）、遠藤忠（むさし小山）、大友英樹（赤羽）、鍋谷憲一（根津）、眞嶋威（新津田沼）、黒田直人（佐倉）

【信徒】鈴木功男（目白）、朝岡瑞子（船橋）、永井清陽（経堂北）、樋田利明（富士見町）、奥山盾夫（千葉本町）、持田侑宏（池袋西）、澤田竹二郎（白金）、角谷多美子（安藤記念）、宮越光（松戸）、林喜久夫（洗足）、岩沙克次（小石川白山）、石渡伸一（聖徒）、鈴木齊（銀座）、小平正宣（代々木中部）、杉浦進（番町）、加藤楽子（聖ヶ丘）、黒沢咲子（下谷）、村杉早苗（浅草）、林言彦（渋谷）、鷺一彦（代田）、川添裕一（自由が丘）、岡村紀男（長原）、甲賀和彦（武蔵野）、鎌田あつ子（目白）、伏見陽子（新津田沼）、石井信滿（長生）

（秋葉恭子報）

「救援対策室会議」新設

教団救援対策本部第11回会議

4月27日、教団会議室にて、教団救援対策本部第11回会議を開催した。

まず、4月23日現在での国内募金総額が3億4、535万3、307円に達したとの報告があり、委員一同が大きな励ましを与えられ、全国の教会からの力強い祈りと支援に心から感謝をした。

また、海外からの献金は2億1、044万705円と報告された。

続いて、教団としての取り組みについて、救援対策室（11号室）から、海外献金プロジェクト関係（寄り添いボランティア講座開催、こひつじキャンプ開催、エマオ笹屋敷支援計画、ハートフル遠野「お花見」開催支援等）の報告が、詳細な報告資料に基づいてなされた。

また、奥羽・東北・関東の各教区から、被災教会の再建・復興計画の現状を中心に報告がなされた。

なお、各被災教区によって、自教区に直接寄せられた献金額に差があり、その取り扱いの方向性にも違いがあることが指摘された。

続いて、「東日本大震災救援対策ニュース」発行、委員による現地視察、東北大学寄附講座開講、NCCにおける支援体制関係、被災教会・伝道所担任教師健康診断（人間ドック）費用補助等、多岐にわたる教団としての支援活動の報告がなされた。

審議事項としては、まず救援対策本部・組織整備について協議した。

その結果、これまで海外献金プロジェクト小委員会、救援対策室長会議においてそれぞれに取り扱っていた内容を総合して検討する「救援対策室会議」をもつこととし、そのメンバーを、教団三役、長崎哲夫委員、佐久間文雄委員、加藤誠幹事、藤盛勇紀総務幹事、計良祐時財務幹事、前北未央救援対策本部主事とした。

また、同会議において会堂・牧師館再建支援も扱うこととした。

次に、具体的な支援に関わることとして、遠野センターの運営、石巻エマオ有償ボランティアの労務管理（東北教区被災者支援センターにおいて一括して行う）、海外の教会・教団への募金依頼（報告書作成）等を検討した。

さらに、本救援対策本部の2012年度事業計画および予算案を検討したほか、田中弘志委員の後任者選任については、宣教協力学校協議会に委員の推薦を依頼することを確認した。

次回会議は、5月31日に教団会議室にて開催することとした。

（雲然俊美報）

多岐にわたる支援活動報告が

エキュメニカル協力奨学生選考

第2回国際関係委員会

多くの興味深い学びに触れて

5月15日、教団会議室において第37総会期第2回国際関係委員会が開催された。前回委員会時にドイツにおけるEMSボランティアプログラムに参加中であった中川志織里さんの報告書をあらためて分かち合い、「生活の中にキリスト教が根ざしている体験を通して、信仰を積極的に捉えることが出来るようになった」との一文に、先方からの招きに応えて信仰者を送る働きの大切さを再認識した。

WCCステュワードプログラムにも参加希望者があり、職員が面接の上、クレタ島へと派遣する準備をしている。

当日の主要な協議事項でもあるエキュメニカル協力奨学金もまた、将来、海外と日本との懸け橋となる役割を担うであろう人々を支えるものである。

協議に先立ち、前年度支援した学生のうち、アジア学院の奨学生が提出した報告書に皆で目を通した。

農業における多くの学びはもちろんのこと、指導者としての育成プログラムでは、互いに意思疎通の困難さを抱え、葛藤しつつも、コミュニケーションを確立していく過程が記され、言葉によらず、今、何をどの目標に進めていくかという実践授業の実りが垣間見えた。主の導きによる日々の充実を祈るものである。

新規の奨学生選考に入り、申請者それぞれの背景、現在おかれている状況を理解するよう努めた。アルバイトをしながら学業に励むのは経済的に困難な場合に誰もが経験することではあるが、そのうちのほんの少しでもこの奨学金によって補い、学びの時間に充てることが出来ればとの思いで慎重に選考にあたった。

選ばれた2名以外の応募者も、それぞれ大変興味深い学びをしておられ、将来の展望も極めて明確に定まっている。豊かさの定義は様々あるが、主の召命に応えて進むことの豊かさは人には計り知れない恵みをもたらす。皆様の祈りと支えによる会計報告は感謝を持って承認された。限りある予算ゆえに受給者に対しても生活全てを支えることは出来ないが、共に同じ主を仰ぎ歩む学生のために委員一同祈り、委員会を終えた。

（網中彰子報）

消息

川端秀子氏（隠退教師）

12年5月6日逝去、88歳。東京都に生まれる。'45年津田塾専門学校を卒業、'51年受洗、'54年国府教会に赴任、'59年より（'79年受按）'94年まで清瀬信愛教会を牧会し、同年隠退した。

遺族は夫・川端由喜男（隠退教師）さん。

印具 徹氏（隠退教師）

12年5月11日逝去、100歳。佐賀県に生まれる。関西学院神学部を卒業後、卯之町教会に赴任、'49年より'91年まで吹田教会を牧会し、隠退した。

遺族は息・印具眞さん。

フィリピン、ボホール島へ

ベルトラン小川文子宣教師派遣式

3月13日、頌栄教会において、加藤誠世界宣教部幹事の司式、清弘剛生世界宣教委員（頌栄教会牧師）の説教により、ベルトラン小川文子宣教師派遣式が執り行われた。

小川宣教師はフィリピン、ボホール・ゴスペル・サチュレーション・プロジェクト（ボホール南部バプテスト教会連合《BGSP》）に日本基督教団派遣宣教師として赴任した。

小川宣教師は、東京聖書学校を卒業し、日本基督教団秋鹿教会を牧会後、OMF（超教派の宣教師派遣団）を通してカンボジアに派遣され、教会開拓チームで奉仕をした。

そこで、フィリピンより伝道に来ていたガマリエル・ベルトランJr.宣教師と知り合い、結婚。OMFを辞し、この度、BGSPへの宣教師となった。

BGSPはフィリピン、ボホール島全土に福音を広めるための教会開拓運動で、ガマリエル宣教師の両親によって2005年に始められ、現在まで12の教会が開拓された。2015年までにボホールの47の地域全てに教会を立てることを目指し、当地の牧師たちは厳しい環境の中、熱心に自給で伝道している。

清弘牧師は「派遣するにあたって」と題した説教で、「ひとりでどうにかしようとするのではなく協力し合うこと、人にしてあげるという気持ちでなく、へりくだること、神様のなさることにひたすら期待すること、この神さまが宣教するにあたって求められる3つを意識し、フィリピンに遣わされ、神さまの働きのあらわれとなってほしい」と励ました。

派遣式の後、教団より派遣準備金が手渡された。その後の茶話会では、大勢の家族、友人、教会員による温かい励ましの言葉と、ガマリエル宣教師の讃美の歌が捧げられた。

（新報編集部報）

教団から派遣準備金が手渡され

「伝道推進室設置」素案提出

第6回伝道方策検討委員会

5月7日、教団A会議室にて、第37総会期第6回伝道方策検討委員会が開催された。

今回の委員会では、『伝道推進室設置に関する件』の素案をまとめて教団三役に提出することと、幼保一体化に関する研修会の準備を進める作業を行った。また合わせて、この委員会の最終的な報告（提言）について確認を行った。

『伝道推進室設置に関する件』は、教団の伝道体制を整えるために、伝道委員会のもとに伝道推進室を設けて具体的な伝道の取り組みを行う、という提案である。素案を整えて教団三役に提出したので、今後は教団三役が議案として整えて次の教団常議員会に提案することになると思われる。

幼保一体化に関する研修会を7月に開催するため、具体的な準備に関して協議した。教会幼稚園、保育園、認定こども園が直面している様々な課題について学ぶと共に、教会に託された幼児教育・保育を支えるための研修会として開催し、報告書を作成する予定である。

伝道方策検討委員会は、2月開催の教団常議員会に『基本提言』としてこれまでの検討内容をまとめて報告した。

課題として指摘しつつこの提言に盛り込むことができなかったものもあるが、先の『基本提言』をもって当委員会の最終提言とすることを確認した。

（岡村恒報）

委員会最終報告（提言）を確認

事務局報

教師異動

大平　辞(兼主)宮﨑　新
〃　就(代)栗田三郎
豊中　辞(担)大住共平
益田　辞(主)東島勇人
〃　就(主)大住共平
兵庫松本通辞(代)原野和雄
〃　就(主)東島勇人
西神美賀多台　辞(担)涌井　徹
兵庫　辞(主)橋野高明
〃　就(主)涌井　徹
聖峰　就(担)福万ゆり香
稚内　辞(主)柳幸三郎
〃　就(主)森言一郎
東中野　辞(主)織田信行
〃　就(代)龍口奈里子
成瀬が丘　辞(主)梅田正二
〃　就(主)森田好和
阿佐ヶ谷就(担)加藤眞衣子
羊之舎　辞(主)外山志都子
〃　就(代)長倉　勉
静岡草深　辞(主)小出　望
〃　就(代)佐々木美知夫
長野県町　辞(主)多田裕志
〃　就(主)小出　望
神戸平安　辞(主)田邊哲朗
〃　就(代)上野清次郎
新庄新生　辞(主)中村英之
〃　辞(担)中村栄美子
熊本城東　辞(主)瀬尾弘志
〃　就(主)中村英之
〃　就(担)中村栄美子
東所沢　辞(主)深見祥弘
〃　就(主)指方周平
近江八幡　就(主)深見祥弘
〃　辞(担)鈴木貴博
安土　就(主)鈴木貴博
大住世光　辞(主)難波　巌
泉　辞(兼主)難波　巌
近江金田　辞(担)佐伯昌祥
石岡　辞(主)舟生康雄
〃　就(代)橘　秀紀
加須　辞(主)浦部牧子
〃　就(主)舟生康雄
銀座　辞(担)宮庄　博
鳥羽　辞(主)尾﨑公明
松山番町　辞(主)小島誠志
〃　就(主)宮庄　博
一宮　辞(主)北野久義
〃　就(主)尾﨑公明
今治　辞(担)大澤　香
洛西　就(担)大澤　香
蒲原　辞(主)仲野隆介
〃　就(代)高橋　爾
坂城栄光　辞(主)溝口賢次
〃　就(主)仲野隆介
相良　辞(兼担)桑　満欣
遠州栄光辞(主)森田恭一郎
〃　辞(担)野村　稔
〃　就(主)野村　稔
〃　就(担)森田恭一郎
静岡　辞(担)佐藤　進
〃　辞(担)佐藤さゆり
海老名　辞(主)寺田信一
〃　就(主)佐藤　進
〃　就(担)佐藤さゆり
横須賀小川町　辞(代)楠原博行
〃　就(主)寺田信一
横浜本郷台辞(主)依田康子
〃　辞(担)佐野　匡
〃　就(主)佐野　匡
〃　辞(担)成田顕靖
高田　辞(主)落合千衣子
〃　就(主)成田顕靖
新井　辞(代)落合千衣子
〃　就(兼主)成田顕靖
久万　辞(代)堀川賢二
〃　就(主)小島誠志
松山東雲女子大学・短大　就(教)棟方信彦

教師退任

西森昌二、田嶋康博

伝道所教団離脱

札幌グッドアワー

教会所在地変更

羽咋　羽咋市東川原町柳橋11－2

教師改姓

谷脇正紀→米山正紀

ひとときの人

永瀬　義則さん

その時々、御言葉に支えられ

1939年生まれ。73歳。萩教会員。

山口県、津和野で生まれ育つ。窯業を学んだ後、親元を離れ、萩の窯元に住み込みで働き始めた。窯元の夫人が熱心なクリスチャンで、教会に行くことを勧められた。当初、早く一人前になることが何よりの関心事で、その言葉を真剣には受け止めていなかった。しかし、一人になると、孤独の中で「これで良いのだろうか」との思いにとらわれ、虚しいものを感じていた。

そのような中で、萩教会に通うようになる。歌が好きだったために、クリスマスのキャロリングが家の玄関の前で歌う「きよしこの夜」を聞き、心が熱くなった。18歳の頃に受洗。「心の貧しい人々は幸いである」、「天に宝を積みなさい」との御言葉が、貧しさから抜け出し、豊かになることを求めてあくせくしている自らの歩みを顧みるきっかけとなった。また、主イエスの「父よ彼らをお赦し下さい、自分が何をしているか分からないのです」とのとりなしの祈りを知り、自らの罪深さを知ると共に、罪の赦しのために自らを捧げた主イエスの愛に心を打たれた。

13年間働いた後、新たな窯に転職。天安門事件の翌年に中国に派遣されることになった。言葉も文化も異なる中、萩焼の技術を指導するのには苦労もあったが、徐々に、相手の心を理解して行くことの大切さを知らされた。お互いの国の言葉や歌を教え合ったことによって、少しずつ交流が生まれて行った。この間、牧師から送られて来る説教のテープを聞くことによって力づけられ、励まされた。生まれ故郷から萩の地に出て来た時にも、また、日本を離れ、中国で働いた時にも、孤独の中で、御言葉に力づけられ、交わりを生み出す原動力を与えられて来たと言う。

現在は、御言葉が生み出す交わりに生かされる喜びを伝えることのために、受洗した時に始めた家庭集会を開き、また、教会では、新しい人を招くための集いを計画している。

さようならー

イースター礼拝後、「今日は身内の結婚式に、ただちに、式場に向かいます。それでは皆さん、さようならー」と言ったら、絶妙のタイミングで、礼拝当番の役員が、「先生、さようならー」と応えたので、礼拝出席者が、大笑いとなった。

次の日の月曜日、「みつばさ」（月報）編集委員会に出たら、「昨日のイースター愛餐会、楽しかったー」と口々に言ってくれた。主任牧師がいなかったので、開放されて、いつに無く楽しい会になったということだ。

イースターに続いて、ペンテコステ礼拝も不在となる。沖縄教区総会に行くことと、沖縄に来るならば「説教奉仕を」との依頼があったからだ。

副牧師は、昨年按手を受けて、ペンテコステ礼拝の説教と、最初の洗礼式を行うことになる。

受洗を決意した2人の青年の一人の父親（役員）は、「副牧師による最初の受洗者になる」と、喜んだ。

先に、イースターには受洗者はいなかった。今回は受洗者が与えられ、主任牧師は不在、最高の、喜びのペンテコステ愛餐会になるに違いない。

私は、「先生、さようならー」、この役員の言葉を反芻して笑ってる。

「笑ってて良いの」（陰の声）。

「えっ」

（教団総会議長　石橋秀雄）